

離れていても繋がれる…

能登地域 授産事業製品カタログ

震災から2年、豪雨災害から1年3ヶ月。被災地では公費解体が進み空き地が増え、町の風景は変わりつつあります。事業所が抱える課題も地域によって異なりますが、就労系の事業所では、被災などの影響で仕事が減少しています。

この様な課題に対し、ゆめ風では遠方からでもできる支援として、能登の福祉事業所が製造する授産製品をまとめた【物販カタログ】を作成し、現在15事業所の商品が掲載されています。今後、新潟県の事業所の商品も掲載予定です。

このカタログに関する詳細をお知りになりたい方は、ゆめ風基金（担当：植野）までお問合せください。

●掲載商品の一部をご紹介します●

*すず樺（珠洲市）

●缶バッチ 200円



オリジナルイラストの缶バッチです！
（両2面あります）

●キリコ（白・黒）1200円



全て手作り。細部まで丁寧に仕上げられています。（縦19.5×横7×奥20.5㎝）

* 作業風景 *



*つながり（羽咋市）

●卓上カレンダー いつからでも使える31日卓上カレンダー



1冊 1,500円
縦120mm×高さ150mm（台紙含む）

●クリアファイル



1枚 200円

●オリジナルノート（A5サイズ） 1冊 500円



（ノートは無地or柄紙が選べます）

●一筆箋（左から：ななま、クワガタ、かえる、たこ） 1冊 500円



このイラストを贈っています！

*えがお穴水（穴水町）

●能登の海の シーグラスタッセル 750円



能登の里山・里海のイメージカラーの布地と、能登の海岸で採れたシーグラスを使って作った『タッセルキーホルダー』です。

シーグラスとは、海岸や湖畔で見つかる波に揉まれて角が取れたガラス片のことで、長い年月をかけて波と砂、岩によって削られて作られます。

元々は人々が捨てたガラス瓶などのゴミが、自然の力で形を変え、美しい姿になり「海の宝石」と呼ばれます。

同じ形をしたものは一つとしてなく、それぞれが異なる表情を持っており、その形に惹かれ愛着が湧きますよ！



「NOTO」のロゴが入っています。

能登の海で採取したシーグラスを使用しています。

*夢かぼちゃ（輪島市）

●トートバッグ



見附、のとしま水族館など、能登の名所をイラストにしました。

小：縦1,500円
（生地厚め）

大：2,000円
（生地厚め）

小：縦35 横36 マチ10 持手24㎝

大：縦38 横40 マチ12 持手26㎝

●おおとり（能登町）

* 期間限定商品 *

ご注文時にお問い合わせください

* さつまいもクッキー 200円

* スノーボールクッキー（冬季限定）200円

・紅茶 ・ココア ・抹茶



ココロと可愛いスノーボールクッキー

見た目が可愛いさつまいもクッキー



スノーボールは、型がないように一つ一つ丁寧に作ります。



間違えのないよう、確認して商品ラベルを準備します。

●缶バッチ 1個 300円

奥能登の方を缶バッチにしました！

・まいね～：おいしい
・だら：バカ
・いいがいに：べつにいい
・きのどくな～：すいません
・はあーちきねえ：はあ～つらい

・まんて：とても
・おいね：そうだな
・どいね：どうなの？
・えちゃけ：かわいい
・だちかん：だめだ



●Tシャツ①：前面プリント 2,500円

色：アイボリー・ブラック・オートミール



●Tシャツ②：背面プリント 2,500円

色：ブラック・ホワイト



* ゆめ風基金のSNSやウェブサイト *



Website



Facebook



Instagram

特定非営利活動法人 ゆめ風基金（認定NPO）
〒533-0033

大阪市東淀川区東中島1-13-43-106

TEL：06-6324-7702

FAX：06-6321-5662

メール：info@yumekazek.com



特定非営利活動法人

ゆめ風

被災障害者支援

能登半島地震 1年10ヵ月

能登半島地震は1日、発生から1年10ヵ月となった。地震による死者は災害関連死を含め、石川、富山、新潟3県で計679人。ほかに石川県の5人が近く関連死として正式認定される方向で、死者の合計は684人になる見通し。

大きな被害が目立った石川県内では、11万6452棟の住宅に被害があった。被災した住宅などの公費解体は、県が解体完了の目標としていた10月末以降も続く。

昨年9月の奥能登豪雨の影響も色濃く残り、県内外の仮設住宅などで暮らす人は豪雨の被災者も含め、10月20日時点で9624世帯計1万9763人(田嶋豊)



豆をパック詰めして納豆を製造する「みのり園」の利用者ら＝10月22日、石川県七尾市で(奥田哲平撮影)

昨年の能登半島地震以来、石川県能登地方の障害者の仕事が減っている。働く場である就労施設で製造する商品の販売先や内職を請け負っていた地元企業が被災した影響だ。そんな中で、新たな仕事創出に取り組む、障害者の社会参加ややりがいづくりに知恵を絞る施設もある。

(奥田哲平、高橋信)

障害者就労
続く苦境

企業被災、施設に打撃



仮設住宅のポストにチラシを入れる「すず橋」の利用者＝10月20日、石川県珠洲市で(高橋信撮影)

七尾市国分町の「みのり園」では10月下旬、利用者5人が職員2人とともに主力商品の納豆づくりに励んでいた。湯気の立った黒豆に納豆菌を振りかけ、手作業でパックに詰める。それが、旅館は軒並み休業し、現在は一掃を除いてほぼ取引がなくなった。

施設長の田畑正村さん(69)は「大手メーカーから県内の就労施設では唯一、自主商品として納豆を製造するというみのり園。地震直後は断水のため製造投資が必要」と悩ましい。

「すず橋」は、地元企業を中心に受注している内職が収入の柱だった。かつては年間約700万円ほどの収入があったが、新型コロナウイルス禍で減少していたところに地震が起きた。受注元の企業が閉業したり事業規模を縮小したりしたことで、仕事が減った。

利用者が作るキリコのミニチュア模型などの小物類は、観光客が減りほとんど売れなくなった。県外の福祉施設などがイベントで代りに販売してくれるが、理事長の宮野修さん(80)は「正直、支援は今年までだ」と思っている。

草刈り、投函… 新たな仕事開拓

ほかにアルミ缶などの資源回収事業や菊手茶づくり、地元企業からの内職の受託で収益を上げる。地震前の平均賃金(工賃)の月額2万円余りを何とか維持しているという。田畑さんは「利用者の皆さんは、仕事にプライドを持っている。給料があり、友だちと会えて楽しみに来ている。居場所を守りたい」と話す。

珠洲市飯田町の「すず橋」は、地元企業を中心に受注している内職が収入の柱だった。かつては年間約700万円ほどの収入があったが、新型コロナウイルス禍で減少していたところに地震が起きた。受注元の企業が閉業したり事業規模を縮小したりしたことで、仕事が減った。

利用者が作るキリコのミニチュア模型などの小物類は、観光客が減りほとんど売れなくなった。県外の福祉施設などがイベントで代りに販売してくれるが、理事長の宮野修さん(80)は「正直、支援は今年までだ」と思っている。

地震前に比べて利用者が3割近く減ったものの、現在も44人の知的・精神障害者が登録。手をまねいてはいるわけにはいかないと、新たな仕事創出に取り組む。その一つが、公費解体後の空き地で伸びた雑草を格安で刈る事業。ただ昨年10月からの1年間で手がけたのは22件で、想定より需要は少なかった。

県が高齢者や障害者らに事業を発注する仕組み「能登復興推進隊」にも登録。仮設住宅へのチラシ投函などの公共的な仕事を受注することで、地震前と同水準の工賃を維持している。利用者によっては収入が増えた人もいて、今年はこの仕事が多かった。今年は従来の半分くらいの収入になってしまったかもしれないと危機感を示す宮野さん。「作業をして工賃がもらえるというのは利用者の生きがいになる。復興推進隊もいつまでもある仕事じゃないと思うので、草刈り事業を周知し顧客を開拓していきたい」と意気込む。

『仕事にプライドを持っている…』

「おいらが掃除しないとすぐに汚くなるんだよ。まったくこまっちゃうよ」この言葉は、輪島の事業所を訪問した時に清掃作業に対してメンバーさんが話してくださった言葉です。このカタログが、支援の一助となれば幸いです。